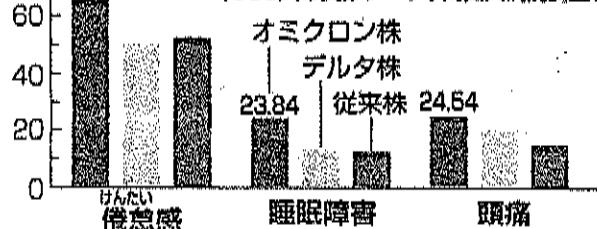


コロナ後遺症 5類後も警戒

医師ら指摘

新型コロナウイルスの後遺症に伴う症状別割合

(2021年2月15日～23年4月28日、
685人の受診データ。岡山大病院調査)



新型コロナウイルスを受診した685人を分析。従来株、デルタ株、オミクロン株の患者を者別に比較したところ、いずれも「倦怠感」を訴える割合が最も高くなりました。

オミクロン株に感染した患者では、睡眠障害の割合が23・8%になりました。平箱光一院長は「いざなみで感染した株でも倦怠感や

アレーンフォグの中核症状は変わらない。急性期症状が軽くても

後遺症が重くなることがあります」と話します。

後遺症疑いの患者を

「感染者の10～30%は後遺症にかかる」とう

べきたヒラハタクリニック（東京都渋谷区）

の平箱光一院長は「いつ

生活してほしい」と

し、感染対策の継続やワクチン接種を積極的に検討するよう求めました。

性期症状が軽くても

後遺症が治まるまでは説明できない症状」と定義しています。ウイルスの残存や感染に

アレーンフォグ」は

全体会の27・0%を占めました。

後遺症が治まるま

での平均治療日数は19

5日でした。一方で、

全体の半数近くは連院

中で、症状の持続期間

は平均で1年を超えて

おり、同の大塚文男

教授は「後遺症を引き

起す共通のメカニズムは特定されていない。移行後も感染対策

新型コロナウイルスを遡っては、倦怠（けんたい）感や頭痛などその後遺症に悩まされる患者も多く、治療期間は長期化する傾向があります。感染症法上の位置付けが季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行した後も、診療に当たる医師は「感染対策を続ける必要があります」と呼び掛けています。

世界保健機関（WHO）は後遺症を「2カ月以上続き、他の疾患では説明できない症状」と定義しています。ウイルスの残存や感染により、集中力が低下する

アレーンフォグ」は全体会の27・0%を占めました。後遺症が治まるまでの平均治療日数は195日でした。一方で、全体の半数近くは連院中で、症状の持続期間は平均で1年を超えており、同の大塚文男教授は「後遺症を引き起す共通のメカニズムは特定されていない。移行後も感染対策

を続けることが必要だと話します。

後遺症疑いの患者を

「感染者の10～30%は後遺症にかかる」とう

べきたヒラハタクリニック（東京都渋谷区）

の平箱光一院長は「いつ

生活してほしい」とし、感染対策の継続やワクチン接種を積極的に検討するよう求めました。

性期症状が軽くても

後遺症が重くなることがあります」と話します。

後遺症疑いの患者を

「感染者の10～30%は後遺症にかかる」とう

べきたヒラハタクリニック（東京都渋谷区）

の平箱光一院長は「いつ

生活してほしい」とし、